様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ１６５７８

研究課題名（和文）18-19世紀の西アフリカ・ハウサランドにおけるムスリムと非ムスリムの境界

研究課題名（英文）The Border between Muslim and Non-Muslim in 18th and 19th Century Hausaland

研究代表者
苅谷　康太（Kariya, Kota）

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：７０６３４５８３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、18世紀後半から西アフリカのハウサランド（現在のナイジェリア北部及びニジェール南部に相当する地域）一帯でイスラーム改革運動を展開したイスラーム知識人、ウスマーン・ブン・フーディーの著作群の分析を礎に、ハウサランド一帯の人々を個々の信仰の在り方を基準に分類した彼の思想とその変容過程を明らかにし、それを通じて、彼が如何なる論理に基づいて自らの展開した軍事ジハードを正当化していったのかを詳らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
ウスマーン・ブン・フーディーの軍事ジハードは西アフリカ史上屈指の規模で展開したジハードであり、それを支えた思想の一端を明らかにした本研究は、アフリカ・イスラーム史研究の領野における大きな学術的意義を有している。また本研究は、軍事ジハードを正当化しようとする論理を解明した事例研究でもあり、その成果は、今日の世界各地において物理的な力の行使を続ける「イスラーム過激派」の行動原理の解明にも寄与し得る学術的意義を有する。

研究成果の概要（英文）：In this research project, principally based on the examination of Arabic writings composed by ‘Uthman b. Fudi (d. 1817), the founder of the Sokoto Caliphate, I clarified how he classified people living in Hausaland and its surrounding areas according to their faith and justified his jihad against the Hausa states and Bornu on the basis of that classification.

研究分野：西アフリカ・イスラーム研究

キーワード：イスラーム　西アフリカ　ハウサランド　ソコト・カリフ国　ウスマン・ダン・フォディオ　ウスマーン・ブン・フーディー　ムハンマド・ベッロ

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

## １．研究開始当初の背景

西アフリカ・ハウサランド（今日のナイジェリア北部及びニジェール南部に相当する地域）のイスラーム史に関してはこれまで多くの研究がなされてきたが、その中でも、フルベのイスラーム知識人、ウスマーン・ブン・フーディー（‘Uthmān b. Fūdī, 1817 年歿。ウスマン・ダン・フォディオ）が 18 世紀後半に開始したイスラーム改革運動は、とりわけ多くの研究者の関心を集めてきた。彼は、ハウサランド及びその周辺地域の人々をその信仰の様態を基準に分類し、その分類において非ムスリムと見做した人々を「正しい」ムスリムにするため、もしくは排除するため、19 世紀初頭に軍事ジハード（聖戦）を開始した。そして、このジハードを通じて建設されたソコト・カリフ国は、その後約 100 年間に亘ってハウサランド一帯を支配し続けた。このジハードに関する先行研究は少なくないが、西アフリカ史上特筆すべき規模で展開したこの宗教・社会改革運動を議論の対象とした時、イスラーム思想史及び西アフリカ宗教史という大きな文脈において重要でありながら、これまで十分に論じられてこなかった問題があった。

1 つ目は、ウスマーンによる上記の人間分類に関わる問題である。イスラーム法上、ジハードにおける攻撃対象は、原則的には非ムスリムに限られるため、ムスリムと非ムスリムとを詳細かつ適切に峻別することは、武力行使の対象を明確化し、更にはその武力行使そのものを正当化するために不可欠の作業であったと言える。そして、ウスマーンの著作からは、彼が西アジアから西アフリカに至る広域の各地で著された多様な著作群の内容と、改革運動の進展に伴って変動する周囲の政治・社会状況とを勘合しながら、この峻別に関する複雑な理論を段階的に構築していき、それによってジハードという名の武力行使を正当化しようとしていた様子が窺える。しかし、従来の研究では、この人間分類に関する思想の存在や、それがジハードの遂行に関与した点は言及されてきたものの、その詳細な内容や、それを支える複雑な論理の構築過程、更には時代を追って変化していく分類の在り方については十分に吟味されてこなかった。

2 つ目は、西アフリカ宗教史に関連する問題である。西アフリカには歴史的に多様な信仰体系が存在してきたと言われるが、植民地期以前におけるそうした諸体系の実態を文字資料の分析から実証的に論じる研究は、これまでほとんどなされてこなかった。これはハウサランドについても同様で、ウスマーンによってムスリムと非ムスリムの識別がなされた点は指摘されてきたものの、その非ムスリムが奉じていた現地信仰体系が具体的にどのようなものであったのかは十分に解明されてこなかった。

以上の 2 点が本研究課題を設定した背景である。

## ２．研究の目的

本研究の目的は、以下の 2 点にまとめられる。

① ハウサランド及びその周辺地域の人々を個々の信仰の在り方を基準に分類したウスマーンの思想の詳細とその変遷過程を明らかにし、それを通じて、彼が如何なる論理に基づいて自らの展開する軍事ジハードを正当化していったのかを解明すること

② ウスマーンが非ムスリムと見做した人々の間に広まっていた、ハウサランド社会の現地信仰体系の諸側面を描き出すこと

## ３．研究の方法

本研究を進める上で最重要の資料となるウスマーンらのアラビア語・ハウサ語著作の多くは未刊行の写本資料であるため、それらを所蔵するナイジェリア各地の大学図書館や公文書館での資料調査が本研究の基盤となる。報告者は、研究期間中にそうした現地資料調査を複数回実施し、そこで蒐集・渉猟した写本資料の分析及び 19 世紀の欧語旅行記等の検討を通じて、上記「2. 研究の目的」で示した 2 つの目的を達成しようと考えた。

## ４．研究成果

本研究では、研究成果として、査読付き学術論文を 6 本発表し、学会等での口頭発表を 6 回行った。これらの中でも、アフリカ・イスラーム研究の領野において現在最も重要な国際学術雑誌の一つである *Islamic Africa* に採択された論文（Kariya, Kota, “*Muwālāt* and Apostasy in the Early Sokoto Caliphate,” *Islamic Africa*, vol. 9, issue. 2, 2018, pp. 179–208）では、初期ソコト・カリフ国の指導者層のアラビア語著作群やその他の資料の分析に基づき、彼らがハウサランド及びその周辺地域の人々をその信仰の様態によってどのように分類し、更にその分類を礎に、自らのジハードをどのように正当化したのかを詳細に明らかにした。ここで明らかにしたことは、これまで国際的に進められてきたソコト・カリフ国のジハードに関する研究、更には 18–19 世紀の西アフリカ・ジハード史研究を、特にその思想・論理の面において進展させるものであったと言える。

また報告者は、ソコト・カリフ国史研究、ひいては西アフリカ・イスラーム史研究の更なる進展にはその基礎となる 1 次資料に多くの研究者がより容易に接近できる環境の拡充が不可欠であるという考えから、初期ソコト・カリフ国指導者のアラビア語著作の校訂・英訳にも力を注いだ（Kariya, Kota, “A Revolt in the Early Sokoto Caliphate: Muḥammad Bello’s *Sard al-Kalām*,” *Journal of Asian and African Studies*, no. 95, 2018, pp. 221–303; Kariya, Kota, “The “Ignorant People” in Hausaland: ‘Uthmān bn Fūdī’s *Ḥukm juhhāl balad Ḥawsa*,” *Journal of Asian and African Studies*, no. 92, 2016, pp. 207–220）。これらの校訂・英訳は、東京外国語大学のホームページ上で誰でも自由

に閲覧することができる（http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/92464; http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/88471）。

今後の展望としては、本研究課題の内容を更に発展させ、ソコト・カリフ国の成立・拡大を促した軍事ジハードと同国の政治・経済・社会を支えた大規模な奴隷制という 2 つの「暴力」が、ウスマーンを始めとした初期ソコト・カリフ国の政治指導者達の如何なる知的活動によって理論化・正当化されていったのかを包括的に解き明かすための研究課題に取り組もうと考えている。この新たな研究課題は、平成 31 年度の科学研究費助成事業・基盤研究（C）として採択されたため、今後 4 年間は、この基盤研究(C)の枠組みの中で研究を進めていく予定である。

## ５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　6　件）

① Kariya, Kota, “*Muwālāt* and Apostasy in the Early Sokoto Caliphate,” *Islamic Africa,* 査読有り, vol. 9, issue. 2, 2018, pp. 179–208.

② Kariya, Kota, “A Revolt in the Early Sokoto Caliphate: Muḥammad Bello’s *Sard al-Kalām*,” *Journal of Asian and African Studies,* 査読有り, no. 95, 2018, pp. 221–303.

③ 苅谷康太「一七世紀の西アフリカにおける奴隷化の論理：アフマド・バーバー『階梯』の分析」『史林』、査読有り、101 巻 1 号、2018 年、83–115 頁。

④ 苅谷康太「初期ソコト・カリフ国における背教規定」『アジア・アフリカ言語文化研究』、査読有り、94 号、2017 年、137–177 頁。

⑤ Kariya, Kota, “The “Ignorant People” in Hausaland: ‘Uthmān bn Fūdī’s *Ḥukm juhhāl balad Ḥawsa*,” *Journal of Asian and African Studies,* 査読有り, no. 92, 2016, pp. 207–220.

⑥ 苅谷康太「19 世紀初頭の西アフリカにおける不信仰者の分類と奴隷化：ウスマーン・ブン・フーディーの著作の分析から」『アフリカ研究』、査読有り、89 号、2016 年、1–13 頁。

〔学会発表〕（計　6　件）

① 苅谷康太「西アフリカにおけるムスリムと非ムスリムの境界」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・基幹研究「中東・イスラーム圏における分極化とその政治・社会・文化的背景」2018 年度中東☆イスラーム教育セミナー、2018 年 9 月 14 日、於東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。

② 苅谷康太「引用・解釈・操作：ムハンマド・アル=マギーリーとウスマーン・ブン・フーディーの知的連関」国立民族学博物館・共同研究「個–世界論――中東から広がる移動と遭遇のダイナミズム」（代表：齋藤剛・神戸大学准教授）2017 年度第 2 回研究会、2017 年 12 月 9 日、於国立民族学博物館。

③ 苅谷康太「17 世紀の西アフリカ・ムスリム社会における奴隷売買の基準：アフマド・バーバー『階梯』の分析」日本アフリカ学会第 54 回学術大会、2017 年 5 月 20 日、於信州大学教育学部。

④ 苅谷康太「初期ソコト・カリフ国における背教既定の確立」日本アフリカ学会第 53 回学術大会、2016 年 6 月 5 日、於日本大学生物資源科学部。

⑤ 苅谷康太「19 世紀初頭のハウサランドにおける不信仰者の分類」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 AA 研フォーラム、2015 年 12 月 10 日、於東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。

⑥ 苅谷康太「『背教者』の奴隷化を巡るウスマン・ダン・フォディオの思想」日本アフリカ学会第 52 回学術大会、2015 年 5 月 23 日、於犬山国際観光センター・フロイデ。

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：
研究者番号（8 桁）：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。